

安全管理委員会報告

KANEMURA Seiki

金村 政輝

宮城県立がんセンター研究所

JACR 理事

安全管理委員長



理事

伊藤 秀美
愛知県がんセンター研究所

西野 善一
金沢医科大学

大木 いずみ
埼玉県立大学

茂木 文孝
(公財) 群馬県健康づくり財団

専門委員

森島 敏隆
大阪国際がんセンター

安全管理委員会は、がん登録室への支援を通して、個人情報の保護を確実なものとし、がん登録への信頼を高め安全な利活用の環境整備に貢献することを目的として活動しています。現在の主な活動は、国立がん研究センターからの委託による都道府県がん登録室外部監査事業になります。

この事業は、これまで、都道府県がん登録室の関係者、外部の有識者の協力を得て、外部監査委員会を組織し、実施してきました。外部監査を通して、各都道府県がん登録室における個人情報保護の体制はより強固なものとなって参りました。しかし、外部監査も2巡目となり、慣れによる形骸化は注意すべきことです。また、新たなリスクに備える必要もあります。一方で、近年、外部監査委員の退任も増え、継続性が大きな課題となって参りました。

そこで、今年度、7点の変更を行いました。①組織体制について、外部監査委員会を安全管理委員会の下に置き、安全管理委員会

が外部監査に関する企画・評価を行うことにしました。②地域ブロック制を導入し、同じ地域の実務者に監査を担当していただくことで、継続性とピア・レビューの実効性を高めることを目指しました。③外部の有識者には、第三者評価をお願いし、客観性の確保を目指しました。④監査調書における監査項目と評価基準の簡略化を行うことで、効率化を図りました。⑤国立がん研究センターからの指示に基づき登録実務のレビューを開始しましたが、この参考とするため、登録実務に関するアンケート調査を開始し、結果を共有させていただきました。⑥前年度の監査結果を提供することで、登録室における業務の見直しに役立てていただくこととしました。⑦今後、監査委員・対象都道府県へのアンケート調査を行い、PDCA サイクルに役立てる予定です。

引き続きご理解とご協力をよろしくお願いいたします。また、外部監査委員へご協力いただける方があれば、是非よろしくお願いいたします。

J-CIP 委員会報告

ITO Yuri

伊藤 ゆり

大阪医科薬科大学

JACR 理事

J-CIP 委員長



理事

伊藤 秀美
愛知県がんセンター研究所

杉山 裕美
放射線影響研究所

専門委員

阪口 昌彦
高知大学

片山 佳代子
群馬大学

増田 昌人
琉球大学病院がんセンター

猿木 信裕
群馬県衛生環境研究所

2025年のJ-CIP委員会の活動は6月にウインクあいちにて開催された日本がん登録協議会学術集会 J-CIP 委員会セッション「患者、市民と共にがん登録データを地域のがん対策に役立てよう」(ニュースレター X 号に掲載)に始まり、9月には三菱財団・社会福祉事業・研究助成に「J-CIP (Japan Cancer Information Partnership): 当事者とともにつくる真に役立つがん情報発信」のテーマで採択された。また、10月28日には静岡で開催された日本公衆衛生学会においてグループワーク2「持続可能なユニバーサルヘルスカバレッジと健康の公平性について考えるワークショップ」を開催し、約40名の参加があった。複数のテーマを設定したグループワークにおいて、データ活用環境に関するグループが二つ作られ、医療制度の持続可能性や公平性に関して、がん登録を含むデータ利用の課題や患者、市民、研究者の視点でのご意見を出していただいた。(写真1)11月30日には大阪医科薬科大学で開催された全国がん患者団体連合会主催のがん患者学会2025において、JACR共催のセッションとして「がん登録で見えてくる地域の姿～みんなで調べて考えるワークショップ～」を開催した。ファシリテーターは全がん連理事の樋口

麻衣子さん、香留美奈さんと、J-CIP委員会からは伊藤、寺本典弘先生(四国がんセンター)、増田昌人先生(琉球大学)ががん登録の概要や地域の活用事例を紹介し、チューターの杉山裕美先生(放射線影響研究所)、柿崎真沙子先生(愛知医科大学)、八木麻未先生(和歌山県立医科大学/大阪医科薬科大学)、西尾麻里沙先生(大阪医科薬科大学)の見守る中、参加者ががん登録情報の検索を行った。現地では38名の参加があり、現在オンデマンド配信中であり、オンラインでがん登録データを活用した情報発信に関する意見を収集しており、今後の事業展開に活用したい。

写真1

